

令和6年度新時代の英語教育推進事業

第1回研究協議会

実践研究で大切にしたい視点

山形県教育局義務教育課

✓ Self-introduction

何ができる？
(目 標)

話すこと [やり取り] ウ
その場で質問したり答えたり
することができる

何を学ぶ？
(内 容)

- ・ 質問したり答えたりする
- ・ 言語材料：What ○○ do you ~? / Do you ~? / I like ~. / I can ~. など

どのように学ぶ？
(言語活動など)

言語活動：「自己紹介」
目的：「お互いのことをよりよく知るために」
相手：初めて会った先生方

視点1

単元等で育成を目指す資質・能力を明確にする

視点2

言語活動を通して指導する

視点3

目標に向けて指導したことを評価する

視点Ⅰ

単元等で育成を目指す資質・能力を明確にする

その単元では、どんな力を育てたいか（重点となる領域は？）

目標に向けて、どんな活動で何を指導するか

児童生徒がどのような姿・発話なら「おおむね満足」か

単元（本時）の目標

単元（本時）を通して、どんな力を付けたいのかを常に意識しながら授業を行うことが大切です。付けたい力に即して、「今日はどんなことができればよいのか」を明確にしましょう。



目指す児童の姿を具体的に描く

単元末の言語活動における具体的な児童の発話などの例を、「A評価の例」「B評価の例」として事前に書いてみるとよいでしょう。

→ 評価の基準が明確になります。



視点2

言語活動を通して指導する

「誰に」「何のために」コミュニケーションを行うか具体的に

Try & Errorをくり返す場を十分に確保

目標や活動のねらいに向けた指導（気づきを促す中間指導）

必然性のある言語活動

「誰に(と)」「何のために」コミュニケーションを行うのか、生徒は意識できていますか？

「相手に興味をもってもらえるように、〇〇を伝え合う」という言語活動であれば、どんなことが相手に伝われば興味をもってもらえるか、何を知りたいかなどを生徒に問いかけるなど、生徒自身が考える機会を充実させたいですね。



児童生徒が思考・判断する工夫

使う表現を提示するのではなく、生徒に考えさせるようにします。例えば、「I would like ○○.」を使うように示すのではなく、「注文する」という場面を確認します。その中で、どのような表現を使えばよいかを生徒が考えることが大切です。



中間指導について

① 先生が常に目標を意識した指導を行うことで、生徒も目標への意識が高まる。

(例) 本時の目標が、発表の「内容面」に関すること

→ 中間指導では、「正確さ」よりも「内容面」をふり返る

② 生徒が発言したり考えたりする機会を確保する。

(例) 「どんな内容があるとよいか」を生徒に問いかける、各々教科書を参考にする時間、モデルとなる生徒の発表 など



練習からリアルに

パターンプラクティスに終始していませんか？

→（例）「三人称単数現在形の文」の練習

クラスメートや学年外の先生について知っていることについて、「使いながら“s”を付けることに気付く」「生徒が表現してみても、必要に応じて指導を行う」など、言語材料についての練習でも、言語活動の目的や言語の使用場面を意識できるようにしましょう。



視点3

目標に向けて指導したことを評価する

目標に向けて指導したことは何か

目標としていない(指導していない)ことを評価していないか

評価する前に繰り返し指導(支援)を行っているか

思考・判断・表現の評価①

- ▲ 「三人称単数現在形を用いて、あこがれの人物について発表している」
三単現のsなど、言語材料を正しく用いて発表している = 知識・技能の側面
→ 「…のために、具体的な情報を付け加えてあこがれの人物について発表している」
= 思考・判断・表現は、特定の言語材料を指定せずに、目的・場面・状況に応じた内容になっているかを評価しましょう。(話すこと・書くこと)



思考・判断・表現の評価②

三人称単数現在形を正しく用いることができるか（知識・技能）を見る場面も必要ですが、例えば、

- ① 三単現のsはついていますが発表内容がうすい
- ② 三単現のsは抜けることもあるが発表内容が豊か

これらを「思考・判断・表現」の観点であればどう評価するか、適切に判断しましょう。



✓ 実践計画書（報告書）と授業改善チェックシートについて

実践計画書

英語教育実践ケーススタディに係る実践計画書（報告書）（小学校）

学校名			
氏名		担当学年	

1 英語指導力向上について

重点項目	方 策	中間評価（9月）	最終評価（3月）
(1) 育成を目指す資質・能力を明確にした単元構成			
(2) 言語活動を通じた指導			
(3) 十分なインプットを基にした授業			
(4) ()			

2 実践の普及について

重点項目	方 策	中間評価（9月）	最終評価（3月）
(1) 校内・教員へ			
(2) ()			

※1(3)、2(2)については、各学校の実態に応じて、その重点とする項目があれば追加してください。
 ※評価については、具体的な児童の姿を添えて記入してください。また、右太枠に達成状況を、○、△、×のいずれかで記入してください。（十分満足＝○、おおむね達成＝△、やや不十分＝△、不十分＝×）

3 英語教育実践リーダーとしての「成果」と「課題」をお書きください。（中間評価時点）

4 英語教育実践リーダーの活動を通して「総括」をお書きください。（最終評価時点）

実践について

普及について

授業改善チェックシート

〇〇立〇〇学校 業・氏名： _____

【授業づくり】	7月	11月	3月
1 各授業で育成する資質・能力を見定める 【育成を目指す資質・能力を明確にした単元構成】			
(1) 学年・領域別の目標に基づいて単元や本時の目標を設定し、児童生徒と共有する。			
(2) 各単元で領域を焦点化して「指導と評価の計画」を具体化する。			
2 教科の特質に応じた見方・考え方を働かせて考えたり、繰り返し活用したりする場面をつくる 【言語活動を通じた指導の充実】			
(1) コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を明確に設定する。			
(2) 身に付けた知識・技能を児童生徒が活用できるような場面を創出する。			
(3) 付けた知識・技能を他分野・他教科・他単元・他学年・他学年に活用する場面を創出する。			
<小学校> 【十分なインプットを基にした授業づくり】			
(1) 自ら学ぶ場面の中で、児童生徒が主体的に学習に取り組む機会を創出する。			
(2) 自ら学ぶ場面の中で、児童生徒が主体的に学習に取り組む機会を創出する。			
<中学校> 【思考・判断・表現することと繰り返す授業づくり】			
(1) 「聞くこと」「読むこと」については、必要な情報や根拠、要点を捉える活動を設定する。			
(2) 「話すこと【やり取り】」「話すこと【発表】」「書くこと」については、題材や課題に関して、適切な内容を自分で考えて表現する活動を設定する。			
【小学校の学びを活かした系統的な指導】			
(3) 小学校の各領域の目標や学習（言語材料、活動内容、教材）を把握し、学んできた表現を繰り返し活用する場を充実させる。			
3 学習状況を適切に評価し、個に応じた支援を行う			
(1) 児童生徒の学習の到達度を把握しながら、繰り返し指導したうえで総合的に評価する。			
(2) デジタル教科書、ICTの活用を含め、個に応じた学びを充実させる。			
4 何を学んで、何ができるようになったかを確認する（場面をつくる）			
(1) 授業の中で、まとめと振り返りの時間を確保する。			
(2) 個に応じた補充や発展等の指導を計画・実施する。			

【評価について】
 4 = 十分満足できる状況（達成度80%以上）
 3 = 概ね満足できる状況（達成度60%以上）
 2 = あまり満足できない状況（達成度40%以下）
 1 = 満足できない状況・未実施（達成度20%以下）

【特記事項【〇月】】
 ※ご自身の授業づくりに関して、改善した点や今後改善することなど、特に記載することがある場合に記入してください。

より具体的な
振り返りの視点

学校教育指導の重点

英語教育実施状況調査

Step Up評価問題

英検IBA